

第1B(中)分科会 教育課程に関する課題

提案主題 外部環境の支援的要因を活かした教育活動の充実と実践
サブテーマ ～小・高や外部団体等との連携における教頭の関わり～
協議の柱 他校種や外部団体と連携して、より一層教育活動を充実させるために教頭としてどのように関わればよいか。

提言者 由布市立湯布院中学校 安東勝利

1 質 疑

- (1) Q 連携型中高一貫スタートで、教育目標の擦り合わせはどのように行っているのか。
A 校長部会で確認している。高校改革推進計画がきっかけとなった。
- (2) Q 地域とつながる教育活動は具体的にどう行っているのか。(教科、時期、計画性など)
A 教務との連携で、教科・道徳・総合で。定例化して計画的に実施しているものもある。地域の要請などで単発に実施する場合もある。

2 協 議

- (1) 由布市のように大がかりではないが、どの学校も他校種との連携はできている。教頭は窓口(事務局)で連絡調整、教務・担当者を中心として進める。スケジュール調整や文化(考え方)の擦り合わせも教頭が行う。C・Sでの外部との連携も。
- (2) 湯布院という特別な地域。教頭は、校長の意向を確認しながら、取捨選択・連絡調整。安心院のように、小中で研究テーマも同じにして、発達段階に応じて設定している地域もある。大分市は校区毎に実践。
- (3) 中高一貫・小中一貫教頭は、各地域で色々な取組がある。教頭は、教職員にフィードバックするようにしている。意義を伝えて取り組むことで納得して進め、成果を教職員に伝える。よいところを具体的に。地域活性化にもつながる。

3 指導助言

- (1) SWOTで科学的分析をして共通理解して進めているのがすばらしい。
- (2) 点と点をつなぐ役目としての教頭が積極的に活躍している(指導と連絡・調整)。
 - ①教職員間を結ぶ…人材育成の視点。(教務主任の指導・教務主任以外の指導)
 - ②校種間結ぶ…校種間の「接続」での情報交換。小・中の授業で学び合う取組の推進。
 - ③中高一貫…由布市は中3と高1の接続にポイントをおくのが特徴。生徒間交流あり。
 - ④地域を結ぶ…由布市は全校がコミュニティ・スクール。人材と地域を繋ぐ仕組み。
- (3) 総合的な学習の時間の進め方での教頭の役割…「問題解決的な学習」、「豊かで深い学び」を実現するための研修の推進や、コーディネータの配置など。
- (4) 地域の人材活用…開かれた教育課程となっているか、各地域で再点検を。担当者が代わっても継続できる仕組みや、地域・保護者と教育計画を共有できる工夫等が必要。